令和
8年度

事業所における自己評価総括表（公表）

COMPASS発達支援センター本部(放デイ)

○事業所名	COMPASS発達支援センター本部　放課後			
○保護者評価実施期間	令和8年9月5日		～	令和8年9月26日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	34	（回答者数）	29
○従業者評価実施期間	令和8年9月5日		～	令和8年9月19日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年10月16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	COMPASSでは全国に事業を展開しており、系列事業所との連携があります。各担当者が会議や勉強会をおこなっており、事例検討なども含めて多様な視点からの意見を取り入れて、計画書や日々の療育に取り入れております。	各担当毎に事業部内で担当グループが形成されており、担当グループ主体での会議や勉強会が実施されています。複数の地域に事業所があり、様々な意見や方法を取り入れております。	ご利用者様が楽しみながら通い、成長を感じられるとともに、安心してご利用いただける事業所づくりに努めております。
2	集団活動やイベントの企画において、大人がすべてを決定するのではなく、児童の意見やアイデアを積極的に取り入れる場を設けています。自分で決めて行動する経験を積み重ねることで、自己肯定感を育み、自分を大切にする気持ちや自立心を養う療育を心がけております。	レクリエーションやイベント企画など、「何をしたいか」「どんなルールにするか」を話し合って決定する機会を意識的に設けています。また、失敗や上手くいかないことを貴重な学びの機会として捉えており、「失敗は次に繋がる大切な経験」「間違えても大丈夫」という安心感を持てる声かけを徹底しております。	職員は指示を出す立場ではなく、児童の「主体的な気づきや行動」を促す伴走者としての関わりを共有・徹底していきます。児童が恐れずに新しいことにチャレンジできる体制を築いてまいります。
3	COMPASSではオリジナルの教材を作成しており、お子様に合った教材を活用して支援をおこなっております。	オリジナル教材の他にも事業所独自の手作り教材もあり、お子様に応じた機能訓練や認知訓練へのアプローチも幅広くおこなっております。	現在自社でAIを活用した言語判定システムを開発、運用しており、評価の統一や療育を身近なものにする取り組みをおこなっております。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の主体性を尊重し、失敗を見守る療育を意識している反面、職員によってどこまで見守るか（介入を待つか）の判断や児童へのアプローチ（声かけのタイミング）に一部ばらつきが生じることが課題となっています。	事業所内では、過介助を防ぎ、児童を見守る療育を意識しております。一方で、児童の状態は日々変化するため、職員間で対応の基準にばらつきが生じやすくなっています。	事例検討会を定期化し、どの職員が対応しても一貫した適切な見守りと段階的な支援ができるよう、平準化を図ってまいります。
2			
3			



公表日：令和８年11月13日